

2011年度

科目名	道徳教育の研究				
担当教員	菊地 建至				
配当	人社3		コード	25042	
開期	前期	講時	火曜日5限	単位数	2
授業テーマ	「現代社会の道徳教育を想像・創造する」				
目的と概要	<授業の目標> ・「道徳」に関して、その基礎をしっかりと理解する。とくに「現代社会の道徳(教育)」にとって重要なことを知り、その「自分の生活での実践」と「教育」の両面で成長する。 ・下記テキストも活用しながら、「道徳の教育」について柔軟に考え、多様な「道徳に関する考察・話し合い・授業」を実践することができるようになる。 <授業の概要> ・「道徳教育の研究」は、上記の目標に合わせた授業になる。授業で取り上げることには、たとえば「友人関係にとって重要なことは何か」、「親・教師・先輩などには黙って従わないといけないのか」、「自由に生きるとはどういうことか」、「教育での不正行為に厳しく処する理由は何か」、「異なる意見・価値観をもつ人たちが集まって話しあうのに重要なことは何か」といったことも含まれる予定であり、授業内容の多くは君にとって「身近な」ことだろう。それらがどのような意味で「道徳(教育)」の問題になるのか、楽しみに参加してほしい。 ・「道徳教育の研究」は、たんなる講義形式ではなく、「映像資料」・「課題」・「グループワーク」をたびたび取り入れるなど、学生が「能動的に参加する」機会を多く設ける。一方的に教師の話を聞くだけの(そして自分とはとにかく90分間座っていればそれで十分に授業参加したという)授業がよい人は、この授業には向かない。 ・単位取得には、「予習」・「授業参加」・「復習(課題などを含む)」のいずれに関しても、積極的に取り組むことが必要です。必ず、「成績評価法」や「履修に当たっての注意/助言」の欄もよく読んで、どのような授業か理解して履修するように。 ・参考までに言うと、2010年度の「授業アンケート」ではほとんどの学生が「受講してよかった」ということに関して高得点の評価をくれた。とてもうれしいことだと思う。今年度もそれをつづけられるようにしっかり準備して授業することを約束します。君も、それにこたえて、しっかりと授業に参加してほしい。				
成績評価法	・平常点のみ(100%)で、評価する。 ・平常点は、「授業参加の積極性」・「平常課題や小テストの評価」・「学期末の課題のの評価」などによって、「総合的に」評価される。 ・残念なことだが、2010年度の道徳教育の研究のどの授業でも「出席に関する不正行為(つまり代返など)」が複数回見つかった。学生の間にそうした行為が習慣化しているのかもしれない。しかし、当然のことだが、そうした行為は許されない。とりわけこの授業は、「よい/わるい」・「正しい/不正な」ということを重視する「道徳教育」だから、「一回の出席に関する不正行為(つまり代返など)を、三回の欠席として扱う」ことにする。そのことを承知して、履修すること。				
テキスト	アンソニー・ウェストン『ここからはじまる倫理』、春秋社。				
参考書	適宜、紹介する。				
履修に当たっての注意・助言/準備学習	・この授業では、「話されることばをよく聞き、集中して、ていねいに考える」ということが重視されます。そのために、「私語」はけっして許しません。 ・ただ、毎回座っていれば単位がとれて当然だとか、授業中の「私語」や「授業と無関係な用事をする」ことに厳しく対処されるのは嫌だとか思う学生、遅刻・欠席・早退がちな学生は、この授業には向きません。 ・このように厳しい面がありますが、そうした注意が守られれば、きっと、親しみやすく、楽しく学べる授業になると思います。いっしょに、よい授業をつくりましょう。				
講義計画					
1-2	ガイダンス また、「テレビドラマ」を通して、「道徳的に考えること」をはじめる。				
3-4	テキストを使う学習-1				
5-6	「映画」を通して、「道徳の基礎にとって重要なこと」を知り、「日常生活」や「社会のありよう」の考察にそれを生かす。				
7-8	テキストを使う学習-2				

9-11 多様な資料・教材を通して、「自由に生きること」と「いのちを生きること」について理解を深める。

12 調整日

13-15 「グループワーク」や「学期末のまとめ」関連

以上、順不同。